

皆さんお元気ですかm

2017年7月の出来事を綴っています。ご覧くださいませ。



7月18日。ニカラグア La Revolucion デーの前日。公園の道場が使用禁止ということで、稽古はなしとなった。それで、ニカラグア在住15年以上の笹沼先生と先生の診療所の弟子で、合気道の生徒でもある Winston, そして、同じく先生の弟子で昨日コロンビアから来た Jorge さんの4人で会食した。先生は、整体師である。以前は、合気道や居合道も教えたことがあるとのこと。「先生は、気で患者を治療されておられると聞いています。しかし、大勢の患者さんに、気を送っていたら、疲れませんか」と聞いてみた。「それは、ない。むしろ、気を複数の患者に送ると自分は元気になる。」との返事だった。アメリカで患者を診ているとき、貧乏だったので、この患者を診ていくらになる、とそのようなことばかり考えていた。しかし、今は違う。この患者を本当に治してやりたいという気持ちでやっている。患者の何とか助けてほしいという気持ちと私の何とか治してやりたい気持ちとが一致するようにしている。歳をとったから、筋力はないけど、気力は若い奴には負けない、とおっしゃった。



先生の「患者を治してやりたい気でいっぱい」という言葉を聞いて、ふうと自分のことを思い出した。私は合気道の技を使ってどのように気を出すのかと常に考えていた。呼吸法で息を吐いて気を出すのだ、とそればかりを考えていた。そうじゃない。もっと基本的な事があった。それは、私自身が生徒に合気道を教える気持ちがあるか。その気持ちがいつも稽古ででているかどうかだ。いつも太刀を振りながら、呼吸法だ。息の吐き方だ、声を出せ。腰を使え。なぜか技が先行しているようで、私の気が伝わっているのだろうか。今まで、合気道の普及や授業方法ばかり考えていたけど、生徒への強い気はあったのだろうか。生徒の数ではない。本当に学びたいという生徒に教えてあげたいという気持ちを強く持つことが先なんだと。そして、生徒の学びたい気持ちと私の教えたいという気持ちが合わさって良い稽古ができるのだと。考えさせられた。



7月26日、コブ付の牛を見に行こうということで、JICA 隊員と一緒に、家畜牛の出展場に行った。実は、ニカラグアに来る前に、合気道家で、かつニカラグア JICA の専門家で牧畜支援活動をしていた人から、ニカラグアには両肩の間にコブがある牛がいると聞かされていたので、任地で是非そのような牛を見たいと常日ごろから思っていた。出展場に行って驚いた。本当に背中にコブのある牛がいた。それもかなりでっかい。胴体だけを見ているとまるでサイのような大きさだ。しかし、顔を見ると胴体から想像もできないほど、かわいい顔をしている。まるで、デズニーのアニメにも出てきそうな感じだった。長さが 200 から 300 メートルほどあるこの牛舎には、いろんな色をした牛がいた。コブ付のこの牛の品種は、**Brahman** とのことらしい。後で、ウキペディアで調べたら、原産は、インドとのこと。これも驚いた。



7月28日、私の住んでいるマナグアから北にバスで1時間半ほど行った所にある Leon (レオン) の町に行った。そして、午後からは、この街にある唯一の日本企業 (ヤザキニカラグア (親会社矢崎総業)、自動車ハーネス部品製造業) の工場見学に行った。この工場は、15年ほど前に設立され、現在従業員は、約 13,000 人とのこと。この工場の案内をして下さったのは、当会社の副社長で日本人会会長でもある U 氏。この国に永年住んでいる日本人からは、亜熱帯地方に住んでいる人は働かない、と聞かされているので、この国で日本企業が生き残るためにはニカラグア人に対して、どのような事をされているのか、大変興味があった。U 氏は、まずコアの部分をしっかり固める。つぎに、5S (しつけ) などの教育、そして、人づくり。従業員の作業達成率は、30%でよしとする。100%は望まない、とおっしゃっていた。この国では、寛大な気持ちがないと務まらないなあと U 氏のプレゼンを聞いて思った。工場内のラインには大勢の従業員が働いていた、特に女性の人数が目立っていた。また、工場内も非常にきれいに整理整頓されていた。

